



北海道本島の最東端，市立根室病院での 特定ケア看護師としての活動

市立根室病院 特定ケア看護師 高崎 忍

根室市の紹介

根室ってどんなところ？どこにあるの？と思う方々も多いと思いますので，ちょっと説明を致します。

根室市は北海道東部（道東地方）にある市です。北海道本島の最東端，東西に細長く太平洋に突き出た根室半島の全域と，半島の付け根辺り，北方領土の歯舞群島を市域とし，全国の主要市の中で最も北方領土に近い都市です。



根室市の位置

特定ケア看護師を目指した動機

私が勤務している市立根室病院は根室市内で唯一の公的医療機関であり，また約3万人の医療圏で唯一の救急告示病院です。病床数は135床，10の診療科を掲げ，根室市内の第二次保険医療圏における地域センター病院として，救急告示病院や災害拠点病院に指定されており，比較的専門性の高い医療に務めています。

市内の救急患者はほとんどが当院に来院します。救急車は年間939件受け入れている急性期病院としての側面と，地域密着型の側面を持つ病院として存在しています。しかし，より高度・専門的な診療が必要な重症患者は120km以上離れた3次医療機関へ，救急車あるいはドクターヘリで搬送します（救急車で100～105分，ドクターヘリで50～60分）。

一方で根室市の人口は約26,000人で少子高齢化が進んでおり，慢性的な医師不足が続いている状況となっています。当院の入院患者さんの多くが75歳以上の高齢者で，老老介護であったり独居が多いため，退院調整が厳しく，入院期

間が長期化する傾向にあります。今後，地域住民が重度の要介護状態になっても，できるだけ長い間，または最期まで，住み慣れた場所で過ごすために地域包括ケアシステムのさらなる構築が必要となっています。

看護師は，患者さんとその家族が医師には遠慮があって話さないこともなんでも相談できる立場であり，医師と患者さんとその家族との隙間をつなぐ役割があります。入院中はもちろん退院後も安心して生活できるような医療の提供には，医療と看護師の存在が必要であると考えています。また，当院は医師不足で高齢化が進む中，日々の診療が厳しい状況となっています。医師は，外来診療・検査・処置・救急患者対応などで忙殺されており，病棟の患者さんに変化があってもなかなかすぐには手が回らない状況となっています。このような中，医師の指示のもと適切な医療と看護ケアを提供できるように地域医療振興協会の特定ケア看護師に求められる責務を遂行するために，高度かつ専門的な知識および技能態度を修得し，医師を支援しながら地域医療に貢献していきたい，総合的なフィジカルアセスメントができ，自分で考え自分の判断に責任を持てる看護師になりたいと思い特



市立根室病院



勉強会の様子

定ケア看護師になることに挑戦しました。

JADECOM-NDC 4期生として2020年3月に卒業してからは当院で循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、外科、整形外科、透析で臨床研修を行いました。看護師として働いていたときと違い、特定ケア看護師の立ち位置に戸惑いを感じながらも乗り越え、無事臨床研修を終えることができました。それには、やはり2月、3月と診療看護師 筑井菜々子さんが当院に来てくださり、約2ヵ月間、筑井さんと行動を共にし、特定ケア看護師をアピールできたことが大きく、また看護部・診療部の協力があつたからだと思っています。

所属体制

地域医療振興協会が特定行為にかかわる看護師の教育機関設立の4期生として研修を受け、昨年4月に自施設での臨床研修も終えてからは看護部に籍をおき、特定ケア看護師として救急外来で活動をしています。

日常業務

業務内容は主に救急車の対応とそれ以外に分かれます。

当院の年間、救急車受け入れ件数は939件になります。軽傷患者さんから重症患者さんまでを受け入れています。毎日指導医と検査結果・画像を元に治療内容をディスカッションすることで臨床推論を高めることができます。

私は病棟では急性期からリハビリ期の内科的管理を中心に患者さんに関わっています。発熱していたり、何か不調を訴える患者さんの診察を行い、医師へ報告しています。

特定行為そのものを行う頻度は決して多くありません。その中で多数を占めているものは、動脈採血や気管切開チューブの交換、胃瘻チューブの交換、抗菌薬の投与、電解質の補正、CVの抜去などです。また、外科や内科からPICC(末梢型中心静脈カテーテル)挿入依頼を受け、習得した特定行為を実践する場面も増えてきました。

教育活動

私は今年度、看護部新人教育担当しています。医師から学んだこと、得た知識を今後は勉強会を通し還元していこうと考えてます。

これからの課題

特定ケア看護師として活動してまだ初心者です。病院内での役割など周知されていないと感じています。病棟間を横断し、特定ケア看護師をアピールしていきたいです。また、特定ケア看護師になるために学んだ知識を共有できるように勉強会を定期的に行きたいと思っています。まだまだ、知識として足りないことがたくさんあると思います。身体所見の取り方、臨床推論、診断能力をもっと身に付けていきたいと思っています。